

2021年

個性派“館長” 連続講演会

場所 岡山県立美術館地下1階講義室

定員 50名(申込先着順)聴講無料

10/24日 13:30~15:00

サラリーマンが建てた 「自分流美術館」

～夭折・未完の画家たちを想う～

講師 辻本 高廣氏 (かがみの近代美術館 館長)



講師略歴

- 1957年 奈良県北葛城郡王寺町生まれ
- 1979年 京都産業大学 経済学部経済学科卒業(体育会バドミントン部出身)
- 1979年 金融機関入社(兼 実業団選手)
・30歳頃より絵画・陶芸をコレクション。当初は巨匠のデッサンや油彩小品、陶芸は備前焼(古備前、現代作家)を中心に蒐集。
・1993年に大阪で開催された「夭折の画家たち展」を見て感動。道半ばで亡くなった「夭折・未完の画家」や「異色画家」を中心に収集するようになる。
- 2017年 岡山県苫田郡鏡野町に築150年の古民家を購入しリノベーションに着手。
- 2018年 リノベーション完成(2月)金融機関退社(3月)、かがみの近代美術館開設(4月)
- 2018年 エリアのSWOT分析により、鏡野町を縦断する国道179号線を「高速道路では味わえない各駅停車でアートが楽しめる路線づくり」を各方面に提案
- 2019年 美作国創生公募提案事業に芸術祭を応募し採択される(翌年も採択)
- 2019年 第1回OKUTSU芸術祭を開催。2020年、2021年と開催。

現在は、美術館運営の傍ら、OKUTSU芸術祭の総合ディレクターを務めるとともに、出身県では、現在も奈良県実業団バドミントン連盟会長の役職にある。

10/30日 13:30~15:00

忘れられた漆器 — 蒜山・郷原塗の世界

講師 前原 茂雄氏 (真庭市蒜山郷土博物館 館長)

約400年前から続いていた郷原塗。中国地方に広く頒布されていた有名な漆器ながら、いまや知る人はない。現代郷原漆器の源流となる漆器は如何にして生まれ、どのような変遷を遂げ、なぜ消滅したのか?

伝統工芸の発展と消滅の過程を、蒜山の自然や人々の物語、社会情勢の変遷を織り込みながら、ダイナミックに描く。



講師略歴

1970年、岡山県加茂町(現津山市)生。九州大学大学院博士課程、日本学術振興会特別研究員、九州大学学術研究員を経て、2014年より蒜山郷土博物館館長。2021年より蒜山ミュージアム館長を兼務する。専門は日本中世史学、民俗学。著書に『美作国布施社領の研究』『蒜山・大宮踊の世界』『よみがえる蒜山の原風景』『備後国大田庄故地調査報告書』。編著に『蒜山・郷原塗の世界』(研究編・資料編)(図版編・資料編補遺)など。

岡山県博物館協議会には県下86施設が加盟し、それぞれに特色ある活動を行っています。

協議会設立30周年を記念し、県立美術館では、加盟館の活動を紹介するパネル展示と、加盟館職員による講演会、ワークショップを開催します。

この機会に岡山の多彩で豊かな文化をお楽しみください。

※新型コロナウイルス感染拡大の影響で、日時や内容等が変更になることがあります。
詳しくは当館ホームページでご確認ください。

加盟館の活動を紹介するパネル展示

2021年

10月22日(金)

～11月7日(日)

場所: 地下ホワイエ通路

2021年 秋の連続ワークショップ

丸薬作り・版木で作る薬袋・紙風船

日時 10月31日(日) 10:30～/14:00～

講師 浅野 智英氏(総社市まちかど郷土館 館長)

場所 岡山県立美術館 地下1階研修室

定員 各回10名(申込先着順)

材料費 500円

持物等 墨を使います。汚れてもよい服装で
ご参加ください。

※小学生低学年、未就学児は
保護者と一緒にご参加ください。



どこでも昆虫採集

日時 11月7日(日) 10:30～/14:00～

講師 奥島 雄一氏(倉敷市立自然史博物館 学芸員)

場所 岡山県立美術館地下1階研修室・
土光記念苑周辺

定員 各回10名(申込先着順)

持物等 歩きやすい靴、汚れてもよい服装、必要な人は水分補給用の
水筒など。虫取り網や虫かごなどがあればご持参ください。

※小学生低学年、未就学児は保護者と一緒にご参加ください。

